

第1回全国城跡等石垣整備調査研究会が開かれる

主催：文化庁・姫路市

2004年1月22・23日の2日にわたり、第1回全国城跡等石垣整備調査研究会が「イーグレひめじ」（姫路市本町）内のあいめっせホールで開催されました。

この研究会は、「史跡等に指定されている近世の城跡をはじめ、顕著な石垣・石積を含む遺跡を対象として、創建当時の構築技術やその後の歴史的変遷の中で取り入れられてきた修理技術、あるいは現代から次世代へと確実に伝達するために行う修理技術などの保存と継承を図るとともに、城跡等の石垣・石積を含む遺跡を整備する上での技術的・行政的諸問題に関して、関係者間における共通認識の形成を目的として設置」されました。

こうした目的を理解された行政担当者が70名ほど全国各地から集まりました。

研究会第1日目は、田中哲雄氏（東北芸術工科大学）が「城跡等石垣の整備について」をテーマに基調講演をされました。その後、兵庫県内の事例として姫路城（山本博利氏）、赤穂城（宮崎素一氏）、明石城（村上裕道氏）についてそれぞれ報告がありました。

2日目は兵庫県外の事例として、金森安孝氏が仙台城、宮里学氏が甲府城、宮城弘樹氏が今帰仁城についてそれぞれ報告されました。合計6名の事例報告のあと、狩野久氏（日本城郭研究センター名誉館長）に司会をお願いして、「城跡等整備の諸問題」についてシンポジウムを行いました。

シンポジウムでは、石垣の文化財的価値と安全性を確保する上での現代的工法の導入の関係や、実際の石垣修理現場での市民への啓蒙活動などについて話し合いがもたれました。

1月24日はオプションとして、赤穂城と明石城の見学会を行いました。強行スケジュールとなりましたが、20名の参加がありました。赤穂城では宮崎素一氏、藤田忠彦氏、中田宗伯氏の案内で石垣解体中の現場などを見学。明石城では山下史朗氏、稲原嘉昭氏の案内で、修理の終わった櫓内部などを見学しました。普段見学できない場所を案内していただき、参加者一同大変勉強になりました。

研究会の開催にあたり事務局である城郭研究室の不手際等でご迷惑をおかけすることもありましたが、多くの方々のご協力をえて、無事終えることができました。



□ 事例報告の様子

姫路城天守台石垣について説明しているところ。来年は佐賀県立名護屋城博物館で第2回が開催されるので、どのような報告が聞けるのか楽しみである。

□ 姫路城現地見学会の様子

姫山と鷺山の境界部分。原生林より見る。ここを境に西と東で石の積み方が変化している状況などを見学。北腰曲輪の下までは足下が悪いので行かなかった。

□ 赤穂城現地見学会の様子

本丸石垣の解体修理および二の丸庭園錦帯池の整備状況について、赤穂市の方から説明を受ける。

兵庫県、明石市、赤穂市の協力で、第1回研究会を開催することができました。